

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着と互見授業の実施	
現 状	<p>・基礎学力の向上、振り返り学習などが近年の課題となり、本校でも朝学習や基礎力診断テストを行い、基礎学力定着に努めてきた。しかし、家庭学習を行う習慣がついていない、義務教育の範囲が未定着の状態(Dゾーン)の生徒の数は減っていないのが現状である。さらに、その状態で高校の勉強をするため、高校の授業についていけない生徒が増えてきている。色々な場面で、振り返り学習を行う機会を設け、基礎学力の向上や定着につなげる。</p> <p>・学習指導要領が変わり、授業も効果的な学習方法が問われるようになった。タブレットを活用した授業や授業展開、評価など、振り返りが大切だと言われているが、個人の振り返りはあっても意見を交換する場面が少ない。</p>	
達成目標	①基礎力診断テストの実施と分析	②互見授業の実施
	<p>・全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。結果を振り返る時間をつくり、今後の学習計画につなげる</p> <p>・Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。</p>	<p>・互見授業習慣を年2回設け、意見を交換する場面を設ける。</p> <p>・校内だけではなく、他校で行われている公開授業の案内も積極的に行う。</p>
方 策	<p>・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定着観測を行い、小さな目標を増やすことで、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>・朝学習を校時に組み込み、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。</p> <p>・D3(Dゾーン中最低評価)だった生徒に対して個別指導を行う。</p>	<p>・互見授業習慣を1学期に1回、2学期に1回、計2回設け、公開授業や授業見学を通して、生徒の実態や効果的な学習方法等、気づいたことや感想などを授業担当者に渡すなど、情報共有の機会を設ける。また、タブレットを活用した効果的な学習方法などの意見交換を行う。</p> <p>・教師の学び支援事業を活用し、教科指導、生徒指導、進路指導のノウハウを学ぶ機会とする。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成	
現 状	<p>・SNSは、スマートフォンの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如による事件や事故、いじめに発展するなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にSNSで写真や動画を投稿してしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。スマートフォン等の使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。</p> <p>・交通事故件数は、昨年度は4件発生した。登校時に自動車と接触する事故が最も多い。幸い大きな事故は起きていないが、命に関わるような重大事故に至ることや、加害者になる可能性がある。命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。また、努力義務ではあるがヘルメットの着用など、自分の身を守る認識を高める必要がある。</p>	
達成目標	①SNS上の指導件数	②登下校時の交通事故件数
	<p>・年間報告件数 5件以下</p>	<p>・発生件数 5件以下</p>
方 策	<p>・集会毎にSNSに関する指導、情報提供</p> <p>・「心」の教育、モラルとマナーの指導</p> <p>・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施</p> <p>・校風安全委員による対策等検討会の実施</p> <p>・個別指導</p>	<p>・各集会毎に交通安全指導</p> <p>・自転車点検による安全意識の向上</p> <p>・事故発生時の状況や場所の教室掲示</p> <p>・校風安全委員による対策等検討会の実施</p> <p>・交通安全教室の実施(1年生)</p> <p>・個別指導</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	よりよい勤労観・職業観を身に付けさせ、主体的に進路を選択し決定できる力を育む。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が進路決定する過程として、知りたい企業や進学情報をインターネットで調べ、不足があれば進路指導室にきて就職や進学に関する資料を探しにきている。 数年前より生徒がタブレットでアクセスできる共有フォルダに「デジタル進路指導室」を設け、受験報告書や求人データなどを必要などきに閲覧できるようにした。進路情報が速やかに収集できるようになったが、進路指導室で対面で指導する機会が減りつつあり、伝えたいこと全てが伝えられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約120名が民間企業への就職を希望している。 民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、令和6年度:3人、令和5年度:1人、令和4年度:2人、令和3年度:8人、令和2年度:0人、令和元年度:3人であった。
達成目標	①3学年生徒の進路指導室利用回数、タブレット閲覧回数	②就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均4回以上)	2人以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の置き場所やタブレットでの調べ方などの説明を行う。 進路希望先の決定において迷いがある場合には、進路指導室に相談に来るように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各企業が求める人物や適性などの情報を確実に生徒に伝え、意識の向上を図る。 適性検査を実施し、その結果より本人の適性、能力について考えさせ、進路選択に生かす。 面接時に本人の長所や考えを確実に伝えられるように指導する。 多くの先生方から面接指導が受けられるように指導計画を立てる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	学校行事及び部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、各行事において生徒の主体性を伸ばし、更なる活性化を目指すことが重要となってくる。生徒議会を充実させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。 部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率は88%(生徒会を含む)となっている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は49名(内32名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。 	
達成目標	①主たる行事において満足と回答する生徒の割合	②部活動加入率(生徒会含む)
	85%以上	85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査するとともに、次年度の活動に生かす。 各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程及び成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化	
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催している。 ・各委員長、副委員長が中心となり委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。 ・令和4年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を図っている。 	
達成目標	PTA行事への参加者数(総会除く)	総会の出席者
	前年度より10%増 (R6年度参加者数:29名)	前年度より10%増 (R6年度出席者数:118名)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにPTAページを開設する。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)